



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2001 Number 3

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

R. Y. Osamura, M.D. (03)
Tokai University

PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)
Jikei University

PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)
Showa University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)

National Defense Medical College

COUNCILLORS

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto University

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

S. Mori, M.D. (02)

University of Tokyo

H. Hashimoto, M.D. (02)

University of Occupational and
Environmental Health

T. Manabe, M.D. (03)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)

Kyushu University

COMMITTEE CHAIR

Education

N. Nemoto, M.D. (03)

Nihon University

Finance

M. Shamoto, M.D. (01)

Fujita Health University

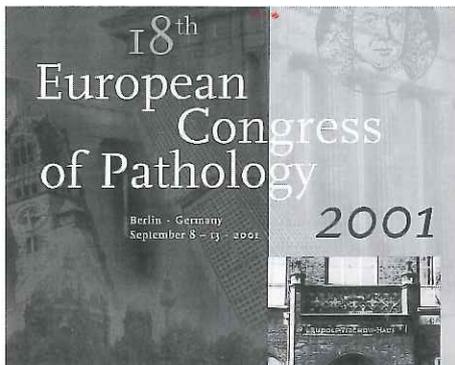
Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University

European Congress of Pathology:

第18回学会 9月8-13日、ベルリン



湘南国際村 Surgical Pathology Update (SPU) 2001を終えて IAP日本支部会長 長村義之

我が国での病理医育成のための一環の活動として、IAP日本支部では日本病理学会との共催で昨年より2泊3日のSPUを始めました。Maryland大学病理のSteven G. Silverberg教授をコースディレクターに迎えて、実際のスライドを用いてのセミナーと最近の知見の講義がその骨子です。昨年(SPU2000)は、乳腺と前立腺、ことしは卵巣腫瘍(Silverberg教授、石倉教授)と甲状腺腫瘍(LiVolsi教授、加藤良平教授)を取り上げました。参加者の中、嬉しいことにかなりの方々、昨年も参加して居られました。講演は英語で行われましたが、参加者から活発な質問が出され大いに盛り上がりました。また、実際のスライド投影によるコンパレーションも一定時間内では処理しきれない程の症例が参加者より提出され、参考になったと同時に非

SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2001

Ovarian and Thyroid Tumor Pathology

June 15 - 17, 2001

Shonan International Village Center
Hayama, Kanagawa

Organized by

The Japanese Division

The International Academy of Pathology
and

The Japanese Society of Pathology

Course Directors

Steven G. Silverberg, M.D.
Professor of Pathology
University of Maryland

Robert Y. Osamura, M.D.
Professor of Pathology
Tokai University

Faculty

Steven G. Silverberg, M.D.
Professor of Pathology
University of Maryland

Virginia A. LiVolsi, M.D.
Professor of Pathology
University of Pennsylvania

Hiroshi Ishikura, M.D.
Professor of Pathology
University of Chiba

Ryohei Katoh, M.D.
Professor of Pathology
Yamanashi Medical University

Secretariat

Osamu Matsubara, M.D.
Professor of Pathology
National Defense Medical College

Mainly sponsored by

サクラ精機株式会社 SAKURA Finetechnical Co., Ltd.

Jointly sponsored by

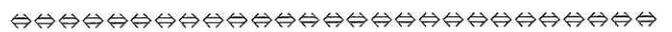
株式会社ダイアヤトロン Dia-iatron Co., Ltd.
株式会社ニチレイ NICHIREI CORPORATION
協和メデックス(株) KYOWA MEDEX CO., Ltd.
ダコ・ジャパン株式会社 DAKO JAPAN CO., LTD.
(株)文光堂 Bunkodo Co., Ltd.
オリンパスプロマーケティング OLYMPUS ProMarketing
ベンタナ・ジャパン(株) Ventana Japan K. K.



常に楽しいものでありました。また、参加者とスタッフとの懇親会でも、各人が自己紹介などをして、日頃は遠く離れている病理医が和気藹々と情報交換をされていました。また、その後の二次会でもSilverberg教授夫妻が夜遅くまで懇談され、参加者一同も大いに楽しい一時を過ごしました。このような催しは、学問的知識の習得のみならず、日常顔を合わせない病理医同士の個人的な繋がりを深め、情報交換をする双方のメリットがあると思っています。昨年は、このSPUを介して我が国に病理医のカップルが誕生しました。実に嬉しいことだと思っています。私は、このSPUには次のようなことを期待しています。

- (1) 米国でのSurgical Pathologyの最近の情勢・情報を聞き、我が国の状況と比較しながら、そのエッセンスを習得する
- (2) 日米での一流のSurgical Pathologistsのプレゼンテーションの仕方を学ぶ
- (3) 米国のSurgical Pathologistsと個人的に親しく知り合う機会とする(留学、共同研究などの機会も可能であろう)
- (4) 参加者同士個人的に親しくなり、今後の情報交換の機会とする。

来年は、6月14〔金〕、15〔土〕、16日〔日〕の3日間、同じ湘南国際村でSPU2002を企画しています。テーマは、子宮体癌(Silverberg教授)と肺病理(Jeffrey Myers博士、Mayo Clinic)を予定しています。皆様是非来年もおいでください。



SPU2001事情

テーマは、「卵巣腫瘍と甲状腺腫瘍」、Maryland大学のSteven G. Silverberg教授とPennsylvania大学のVirginia A. LiVolsi教授、千葉大学の石倉浩教授、山梨医大の加藤良平教授に講師をお願いした。なお、社団法人日本病理学会の後援を受けており、認定病理医の更新に10単位が得られ、参加費は45,000円で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラスライド配付、当日のハンドアウトなどが含まれています。今年は宣伝が遅く不十分なせいか、40人と目標の50人に達しないという事態でした。去年と同様、Silverberg教授は丁寧に親切な講演をして下さり、夜の懇親会のためにバーボンとおつまみまで持ってきて下さいました。長村会長夫人が成田へお迎え、湘南まで車で送って下さいました。LiVolsi教授は来日2度目で、成田から新宿のホテルまで一人リムジンバスで来て頂き、到着の夕方に長村会長と松原がイタリア料理にご招待した。翌日は松原が車で湘南にお連れしましたが、jet lagでひどくお疲れでした。

去年と違って第1日目の昼食から会として用意したので、集合は早かったようだ。玄関でのRegistration後、昼食。部屋へのチェックインが3時なので、不便だが地下のロッカーへ荷物を置いてもらった。13:00から長村会長のOpening and Welcome Remark、講師・役員紹介と参加者の自己紹介が行われた。13:30-14:30 Histopathologic Grading of Ovarian carcinoma: A Review and





Proposal (Silverberg, M.D.)。 14:30-15:00 Coffee。 15:00-16:00 Borderline Tumors of the Ovary (S.G. Silverberg, M.D.)。 16:00-17:00 Ovarian Tumors in Japan (Hiroshi Ishikura, M.D.)。勉強の後、18:30からDinner and Receptionの楽しい会が開かれた。あらためての参加者の自己紹介など盛り上がった。根本教育委員長が落語の一つでも話すのではとの和服姿で現れ、注目の的であった。パーティの終わりごろには何か慌ただしい動きがあり、去年同様、一グループはタクシーを利用してカラオケへ出かけていった。残りの有志はまたまた飲み会の継続。

第2日はサイロイドデーで、09:00-10:00 Follicular Thyroid Lesions (LiVolsi, M.D.)。 10:00-10:30 Coffee。 10:30-12:00 Slide Seminar (Thyroid) (LiVolsi, M.D.)。 12:00-13:30 Lunch。 13:30-14:30 Less Differentiated Variants of Thyroid Carcinoma (LiVolsi, M.D.)。 14:30-15:30 Peritoneal Involvement with (by?) the Ovarian Tumors (Silverberg, M.D.)。 15:30-16:00 Coffee。 16:00-17:00 Prognostic factors in Differentiated Thyroid carcinoma (LiVolsi, M.D.)。 17:00-19:00 Consultation Cases with Faculty。この途中から牛込前会長 (IAP本部次期会長)もお忙しい中、顔を出された。19:00からDinnerとなり、9時頃からまたまた飲み会となった。これにはSilverberg教授ご夫妻、牛込先生も出席され遅くまで盛り上がりを見せた。牛込先生にはこのSPU2001の成功のためにと寄付を頂いています。

最終日は08:30-10:00 Slide Seminar (Ovary)(Silverberg, M.D.)。 10:00-10:30 Coffee。 10:30-11:30 Thyroid

Pathology in Japan (Kato, M.D.)。 11:30-12:00 Summary。解散で、希望者はLunchを摂ることもできました。

SPU2001終了後、Silverberg教授ご夫妻は弘前大学病理部の鎌田義正先生が青森の方へご招待されました。五所川原温泉、十和田湖、ランプの宿などを楽しまれ、腰痛などにもよかったようです。鎌田先生にもお世話になりました。LiVolsi先生は長村会長と松原がホテルまで送り、長村会長夫人が六義園など案内し、夜は京王プラザホテルのイタリア料理店で牛込前会長、鈴木前々会長、加藤良平先生、近藤哲夫先生と食事を一緒に頂きました。帰りはハワイでのんびりされて帰国されました。

この会を成功のうちに開催できたのは何よりもSilverberg教授ご夫妻のご援助によるのですが、忙しい日程で、必ずしも旅行の好きでないLiVolsi先生がはるばると来日して下さいたことも大きいことです。第2日には朝から夕方まで講演にconsultationに大活躍でした。加藤先生の講演は私も聞きたいので英語でやるように言ってくれと頼まれました。加藤先生は快く英語で講演をやって下さり彼女も喜んで聴かれました。石倉先生、加藤先生にも忙しい中を湘南まで来ていただき、素晴らしい講演とconsultation caseの議論に入って頂きありがとうございました。

このSPU2001を開催するにあたって、企業へ寄付1口5万円で、広告協賛1口10万円と援助をお願いした。広告協賛についてはハンドアウト広告を掲載した。なお、SPU2001に寄付と広告協賛に協力頂いたことをIAP日本支部の会報に3回ほど掲載することを約束してい





る。援助頂いた企業はサクラ精機株式会社SAKURA Finetechnical Co., Ltd.、株式会社ダイアヤトロン Dia-iatron Co., Ltd.、株式会社ニチレイ NICHIREI CORPORATION、協和メデックス(株) KYOWA MEDEX CO., Ltd.、ダコ・ジャパン株式会社 DAKO JAPAN CO., LTD.、(株)文光堂 Bunkodo Co., Ltd.、オリンパスプロマーケティング OLYMPUS ProMarketing、ベントナ・ジャパン(株) Ventana Japan K. K.の各社である。特にサクラ精機株式会社には事前の事務的なこと、当日には長妻 猛さん、梅田 実さん、中尾 学さん、山崎 誠さんもお手伝いに来ていただき、受付、運営、事後の事務処理など大変にお世話になった。特に近藤 恵美さんが細々とよく働いていただいたことを参加者はよく分られたと思います。サクラ精機の石塚 悟さんも第2日の夜にウィスキーを持って顔をだされた。第2日の Consultation Cases with Facultyにはオリンパスのご好意で最新のハイビジョン顕微鏡投影装置(鮮明に見えた素晴らしいもの)を使わせて頂いた。オリンパスプロマーケティングの古畑正秋さん、松林 誠さんには機材の運搬、短時間での組立などお世話になりました。

SPU2001参加者へのアンケートの集計

A. Ratings

SCALE 1 2 3 4 5 6 7

COURSE MATERIALS:

• Handouts:

Poor 0 0 0 3 6 9 7 Excellent
0 0 0 12 24 36 28 %

• Projected Materials:

Poor 0 0 1 2 6 7 9 Excellent
0 0 4 8 24 28 36 %

INFORMATION CONTENT

• Amount:

少ない 1 0 1 7 6 5 5 多すぎる
4 0 4 36 24 20 20 %

• Timeliness:

Outdate 0 0 0 2 3 8 12 New
0 0 0 8 12 32 48 %

• Practical Value:

Useless 0 0 0 0 4 9 12 Useful
0 0 0 0 16 36 48 %

OVERALL SATISFACTION

不満足 0 0 0 0 2 13 10 大満足
0 0 0 0 8 52 40 %

B. COMMENTS, CRITICISMSなど

* 湘南国際村センターは、設備は整って快適に勉強できる環境だとは思いましたが、交通の便があまり良くないのではないかと思います。

* ハンドアウトに表や図を多用して、後にpracticalに役に立つようにしてもらいたい。

* 2日目午後のスケジュールがきつかった、休みがほしい。

* コンサルテーションの時間をあらかじめ2時間くらい取ってほしい。

* 日本人の講師も英語でしゃべるべきだった。

* 講師(海外からの)の選択が素晴らしい。

* 会場、運営の方法がとても良かった。

* ハンドアウトは今年のほうが、話しに内容が忠実に詳細に書かれてあったと思う。

* 症例コンサルト用に、顕微鏡を数台用意して頂いて、前もって観れるようにしてもらえともっと勉強になる。

* 演者が決ったことをアナウンスされる時に、ここについて重点的に話してほしいとかの要望を受け付けて頂けるといいと思う。

* メモ用紙が必要。

* 唾液腺のセミナーをやってほしい。

* Consultation Caseでは、提示者はmacroscopy後をスライドで示すべきだ。

* 顕微鏡で鏡検できるようにしてほしい。

* レジデント料金を設定してほしい。

* ノートをとるので加藤先生のようにスライドがコピーしてあると、とても助かります。



